



厚生労働省奈良労働局発表
令和 5 年 6 月 1 日

担
当

奈良労働局労働基準部健康安全課
課 長 能勢 大藏

副主任地方産業安全専門官
西川 聡

電 話 0742-32-0205

令和 4 年の労働災害は大幅に増加

～ 令和 4 年労働災害発生状況（確定値）～

厚生労働省奈良労働局（局長 橋口 忠）では、令和 4 年（1 月～12 月）に県内で発生した休業 4 日以上の労働災害の発生件数を次のとおり取りまとめました。

ポイント

1 奈良県内の労働災害による死傷者数は大幅に増加（死亡者数は前年より減少）

- ・ 令和 4 年の労働災害による休業 4 日以上の死傷者数（以下「死傷者数」という。）は 2,837 人（うち新型コロナウイルス感染によるもの 1,514 人）で、令和 3 年（1,613 人、うち新型コロナウイルス感染によるもの 177 人）と比較して 1,224 人増加しました。
- ・ 令和 4 年の労働災害による死亡者数は 4 人（令和 3 年死亡者数 9 人）でした。

2 業種別では、第三次産業、運輸交通業の労働災害が増加

- ・ 増加数が最も多かったのは第三次産業でした（R3：890 人→R4：2,103 人）。
- ・ 第三次産業のうち最も増加数が多かったのは保健衛生業でした（R3：340 人→R4：1,563 人）。
（保健衛生業には病院、社会福祉施設が含まれます）
被災者の大半は新型コロナウイルス感染によるものでした。
- ・ 製造業（R4：365 人→R3：340 人）、は減少しましたが、建設業（R3：163 人→R4：167 人）、運輸交通業（R3：151 人→R4：179 人）、林業（R3：21 人→R4：25 人）では増加しました。

3 高年齢労働者の死傷者数は大幅に増加

- ・ 60 歳以上の高年齢労働者の死傷者数は、前年より大幅に増加（R3：432 人→R4：585 人）しましたが、全体に占める割合は 20.6% となり、前年（26.8%）よりも、その比率は低下しました。（新型コロナウイルス感染者は 60 歳未満の世代で大きな比重を占めました。）
新型コロナウイルス感染者を除く 60 歳以上の高年齢労働者の全体に占める割合は 28.9% でした。

1 災害の特徴等

(1) 死亡者数の動向

- ・令和4年における死亡者数は4人となり、前年の9人から大きく減少しました。
- ・死亡災害が発生した業種は「製造業(1人)」「運輸交通業(1人)」「林業(1人)」「保険業(1人)」でした。
- ・事故の型別では「墜落・転落」が2人、「交通事故」、「その他」が各1人となりました。

(2) 死傷者数の動向

- ・令和4年の労働災害による死傷者数は2,837人となり、前年に比べ75.9%増加しました。
- ・事故の型別の構成比は、「その他」54.0%、「転倒」12.3%、「墜落・転落」7.4%、「動作の反動・無理な動作」7.0%、「はさまれ・巻き込まれ」4.9%、「交通事故」2.6%「切れ・こすれ」2.6%となりました。

事故の型	発生件数 (令和4年)	構成比 (令和4年)	発生件数 (令和3年)	構成比 (令和3年)	対前年増減率
その他	1,532	54.0%	200	12.4%	+666% 
転倒	349	12.3%	360	22.3%	-3.1% 
墜落・転落	210	7.4%	181	11.2%	+16.0% 
動作の反動・ 無理な動作	199	7.0%	233	14.4%	-14.6% 
はさまれ・ 巻き込まれ	141	4.9%	196	12.2%	-28.1% 
交通事故	76	2.6%	77	4.8%	-1.3% 
切れ・こすれ	75	2.6%	99	6.1%	-24.2% 

労働災害の「事故の型」には、下記のほかに、激突、激突され、飛来・落下、崩壊・倒壊、感電、火災などがあります。

- ・**転倒**：通路や床などで足を滑らせたり、何らかの物につまづいて転ぶ場合のほか、重機を運転していて、横転した場合を含みます。
- ・**動作の反動・無理な動作**：腰痛のほか、ねんざを含みます。
- ・**はさまれ・巻き込まれ**：運転中の機械などに体の一部をはさまれたり、巻き込まれたりして死傷するほか、ドア、台車、荷物や資材などに手足や指をはさむ場合を含みます。
- ・**墜落・転落**：高所から落ちて死傷するほか、はしごや階段などから足をすべらせた場合、車や重機を運転していて作業場や道路から落ちる場合を含みます。
- ・**切れ・こすれ**：機械や手工具などで体の一部を切ったりこすったりして死傷するほか、包丁や割れた食器で指等を切る場合を含みます。
- ・**交通事故**：公道上での事故のほか、私有地内での事故も含みます。
- ・**その他**：いずれの事故の型にも分類されないもので、新型コロナウイルス感染を含みます。

(3) 業種別の動向

業種別では、製造業で死傷者数が減少しましたが、建設業、運輸交通業、保健衛生業では死傷者数が増加しました。

【製造業】

〔総論〕

死傷者数は前年に比べ 6.8% 減少しましたが、死亡者数は昨年と同数の 1 人でした。

〔労働災害の様態〕

死傷者数の構成比を事故の型別にみると、「その他」が 25.6% と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」が 23.5%、「転倒」が 15.9%、「動作の反動・無理な動作」が 7.6% と続きました。「はさまれ・巻き込まれ」は機械設備に身体の一部が挟まれる災害が多く、機械設備の運転を停止しないで修理、調整、清掃、異物の除去等を行い被災する事例が多くみられます。

【運輸交通業】

〔総論〕

死傷者数は前年に比べ 18.5% 増加し、死亡者数は前年と同数の 1 人でした。

〔労働災害の様態〕

死傷者数の構成比を事故の型別にみると、「墜落・転落」が 29.0%、「転倒」及び「動作の反動・無理な動作」がそれぞれ、15.9%、「交通事故」が 9.1% を占めました。

運輸交通業のうち、陸上貨物運送業では、68% が荷物の積み降ろしなど、荷を取り扱う作業（荷役作業）で発生していることが特徴です。

【建設業】

〔総論〕

死傷者数は前年に比べ 2.5% の増加となりました。死亡者数は前年の 5 人から大きく減少し、0 人となりました。

〔労働災害の様態〕

死傷者数の構成比を事故の型別に見ると、「墜落・転落」が 39.3% を占めました。「墜落・転落」災害のうち、42.9% が「はしご」や「脚立」等の使用中に発生しました。

【第三次産業】

〔総論〕

令和 4 年の死傷者数は第三次産業全体で 2,107 人となり、前年に比べ 135.9% 増加しました。死亡者数は前年と同数の 1 人でした。

第三次産業の死傷者数を構成業種別にみると、「通信業」、「清掃・と畜業」で減少しましたが、「小売業」、「飲食店」で増加し、「保健衛生業（病院、社会福祉施設等）」では大幅に増加しました。

なお、「保健衛生業（病院、社会福祉施設等）」の死傷者数の増加については、新型コロナウイルス感染症り患者が 1,364 人発生しましたので、感染拡大に伴う情勢の変化も要因の一つとして考えられます。

〔労働災害の様態〕

第三次産業では、新型コロナウイルス感染症を除いた死傷者のうち、「転倒」、「動作の反動・無理な動作（ねんざや腰痛など）」による死傷者が56%を占めました。

（ア）小売業

小売業の死傷者数は、前年に比べ1.4%増加しました。

死傷者数の37.3%が「転倒」、13.2%が「動作の反動・無理な動作」、7.1%が「交通事故」によるものでした。

小売業では、バックヤードや店内の移動の際の転倒、手押し台車の使用時の転倒や台車のキャスター等に身体の一部が巻き込まれて負傷等、手押し台車使用時の災害事例が多くみられます。

また、交通事故は新聞販売業で多く発生しており、小売業における交通事故による死傷者数15人のうち12人（80.0%）を占めました。

（イ）社会福祉施設

社会福祉施設の死傷者数は、前年に比べ238%増加し、5年連続の増加（H29：89人→H30：115人→R1：133人→R2：154人→R3：242人→R4：818人）となりました。

死傷者数の81.3%が新型コロナウイルス感染症、7.0%が「転倒」、5.9%が「動作の反動・無理な動作」によるものでした。社会福祉施設においては、新型コロナウイルス感染症を除けば、「転倒」「動作の反動・無理な動作」の2つの事故の型が死傷者数の68.6%を占めました。

社会福祉施設では、訪問介護先や施設内における移動時の「転倒」、移乗や体位変換などの介護・介助作業で「動作の反動・無理な動作」により被災する事例が多くみられました。

（ウ）飲食業

飲食業の死傷者数は、前年に比べ34.0%増加しました。

死傷者数の27.0%が「転倒」、18.6%が包丁や割れた食器等による「切れ・こすれ」でした。

また、熱湯や高温の蒸気等で火傷や熱傷を負ったものが15.3%ありました。

（エ）その他の第三次産業

通信業の死傷者数は、前年に比べ38.5%減少し、死傷者のうち33.3%が「交通事故」でした。

2 高年齢労働者の労働災害

- ・60歳以上の高年齢労働者（以下、「高年齢労働者」と称する。）の令和4年の死傷者数は585人となり、前年より153人増加しました。
- ・令和4年の死傷者数の年齢別構成比では高年齢労働者の構成比は20.6%となりました。
- ・業種別にみた高年齢労働者の死傷者数は、保健衛生業が最も多く（255人）、次いで商業（67人）、製造業（63人）の順で多くなっています。清掃・と畜業では、死傷者64人中、33人が高年齢労働者となり、高年齢労働者が被災する割合が最も高くなりました。

参考 業種別で見た主な事故の型の発生割合

(事故の型がその他に分類されるものを除く)

業種	転倒	墜落・転落	はさまれ・ 巻き込まれ	動作の反動・ 無理な動作	切れ・ こすれ	交通事故
製造業 (2660 人に占める割合)	20.3%	9.0%	30.1%	9.8%	8.6%	1.1%
建設業 (140 人に占める割合)	10.7%	39.3%	6.4%	9.3%	6.4%	2.1%
運輸交通業 (176 人に占める割合)	15.9%	29.0%	7.4%	15.9%	0.0%	9.1%
第三次産業 (684 人に占める割合)	36.3%	9.9%	5.0%	19.2%	5.4%	7.7%
全産業合計 (1,305 人に占める割合)	26.7%	16.1%	10.8%	15.2%	5.7%	5.8%

参考資料 1 : 令和 4 年業種別労働災害発生状況

参考資料 2 : 令和 4 年発生の死亡災害事例

参考資料 3 : 死亡者数の推移

参考資料 4 : 死傷者数の推移

参考資料 5 : 高年齢労働者の労働災害発生状況

令和4年 業種別労働災害発生状況 (前年同期対比)

《確定》

業 種	区 分	令和4年			令和3年			死傷者数増減状況	
		4			9			増減数	増減率 (%)
全 産 業 合 計		4	2,837	(1514)	9	1,613	(177)	1,224	75.9%
製 造 業		1	340	(73)		365	(17)	-25	-6.8%
食 料 品 製 造 業			63			63		0	0.0%
織 維 工 業			4			9	(4)	-5	-55.6%
衣服その他の繊維製品製造業			8			6		2	33.3%
木 材 ・ 木 製 品 製 造 業			25			48		-23	-47.9%
家 具 装 備 品 製 造 業			5			9		-4	-44.4%
パルプ・紙・紙加工品製造業			10			19	(11)	-9	-47.4%
印 刷 ・ 製 本 業			21	(4)		9		12	133.3%
化 学 工 業			43			59		-16	-27.1%
窯 業 土 石 製 品 製 造 業			6			8		-2	-25.0%
鉄 鋼 業			9			8		1	12.5%
非 鉄 金 属 製 造 業			0			1		-1	-100.0%
金 属 製 品 製 造 業			69	(42)		60		9	15.0%
一 般 機 械 器 具 製 造 業			15			21		-6	-28.6%
電 気 機 械 器 具 製 造 業			8	(2)		8	(2)	0	0.0%
輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業			8			11		-3	-27.3%
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業		1	20	(19)		3		17	566.7%
そ の 他 の 製 造 業			26	(6)		23		3	13.0%
鉱 業			2			0		2	—
建 設 業			167	(27)	5	163	(11)	4	2.5%
土 木 工 事 業			61	(16)	1	46	(1)	15	32.6%
建 築 工 事 業			74	(8)	1	78	(1)	-4	-5.1%
木造家屋建築工事業			27	(2)	1	34		-7	-20.6%
そ の 他 の 建 設 業			32	(3)	3	39	(9)	-7	-17.9%
運 輸 交 通 業		1	179	(2)	3	151	(1)	28	18.5%
道 路 貨 物 運 送 業		1	153		3	136		17	12.5%
貨 物 取 扱 業			4			3		1	33.3%
林 業		1	25			21		4	19.0%
木 材 伐 出 業		1	18			18		0	0.0%
そ の 他 の 林 業			7			3		4	133.3%
商 業			255	(23)	1	260	(2)	-5	-1.9%
小 売 業			212	(19)		209		3	1.4%
保 健 衛 生 業			1563	(1364)		340	(128)	1,223	359.7%
社 会 福 祉 施 設			818	(665)		242	(88)	576	238.0%
接 客 娛 楽 業			97	(3)		85		12	14.1%
飲 食 業			59	(2)		44		15	34.1%
ゴ ル フ 場 業			16	(1)		22		-6	-27.3%
清 掃 ・ と 畜 業			64	(8)		80	(1)	-16	-20.0%
ビ ル メ ン テ ナ ン ス 業			32	(2)		34	(1)	-2	-5.9%
廃 棄 物 処 理 業			30	(6)		42		-12	-28.6%
警 備 業			17			19	(3)	-2	-10.5%
上 記 以 外 の 各 種 事 業		1	124	(14)		126	(14)	-2	-1.6%

《注1》この統計は、労働者死傷病報告に基づく。(両年とも月末日までに機械入力処理した報告の集計である。)

《注2》 の数字は、死亡者数を内数で示している。

《注3》()の数字は、新型コロナウイルス感染症にり患した労働者数を内数で示している。

※ 参考: 陸上貨物運送事業	1	157		3	139		18	12.9%
----------------	---	-----	--	---	-----	--	----	-------

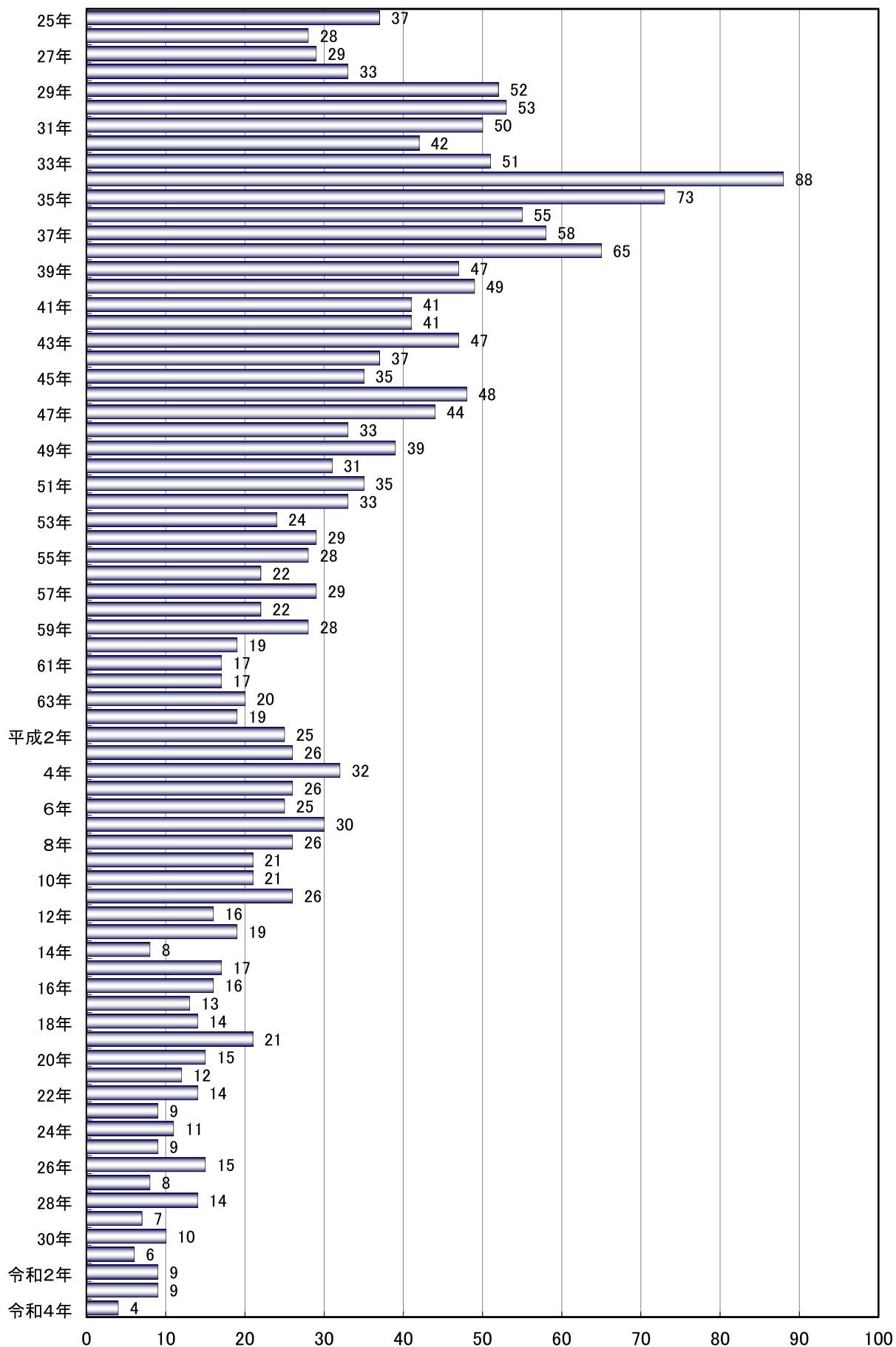
※「陸上貨物運送事業」とは、道路貨物運送業と陸上貨物取扱業を合わせた呼称である。

令和4年発生の死亡災害事例

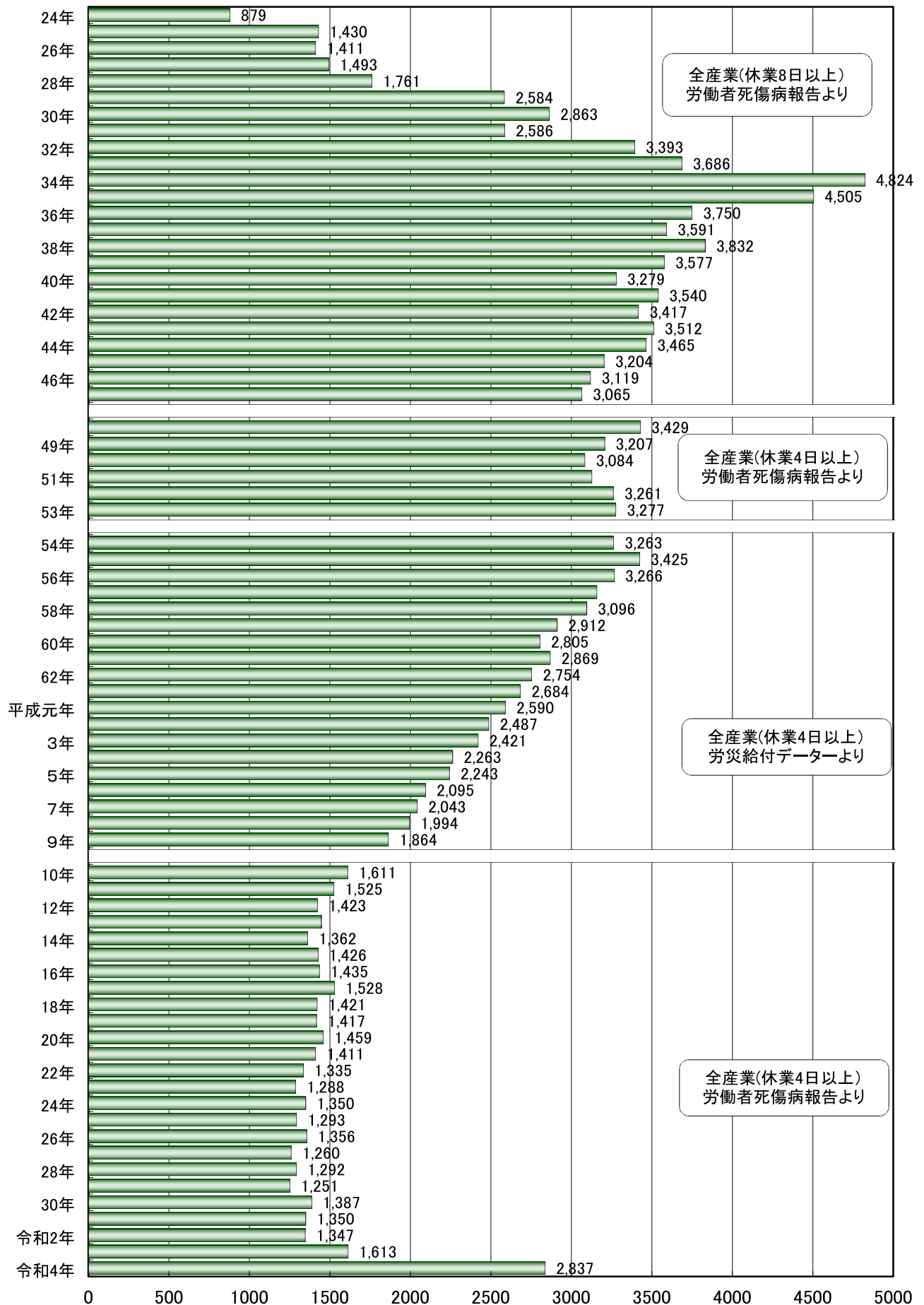
令和5年3月31日現在把握状況

番号	署別	発生月	業種	災害発生概要	起因物 事故の型
1	桜井	4月	木材伐出業	走行集材機械を運転していた被災者が、林道から走行集材機械とともに約2m転落し、全身を強打したため、入院治療をしていたが、その後、死亡したもの。	走行集材機械 墜落、転落
2	葛城	8月	保険業	バイクを運転していた被災者が信号機の無い交差点で出会い頭にトラックと衝突したもの。	トラック 交通事故
3	葛城	8月	電気業	新型コロナウイルス感染症に罹患した。	その他の起因物 その他
4	大淀	8月	特定貨物 自動車運送業	採石場内でブルドーザーを運転していた被災者が、何らかの原因により、運転席から転落し、頸部を負傷し、入院治療をしていたが、その後、死亡したもの。	整地・運搬・ 積み込み用機械 墜落、転落

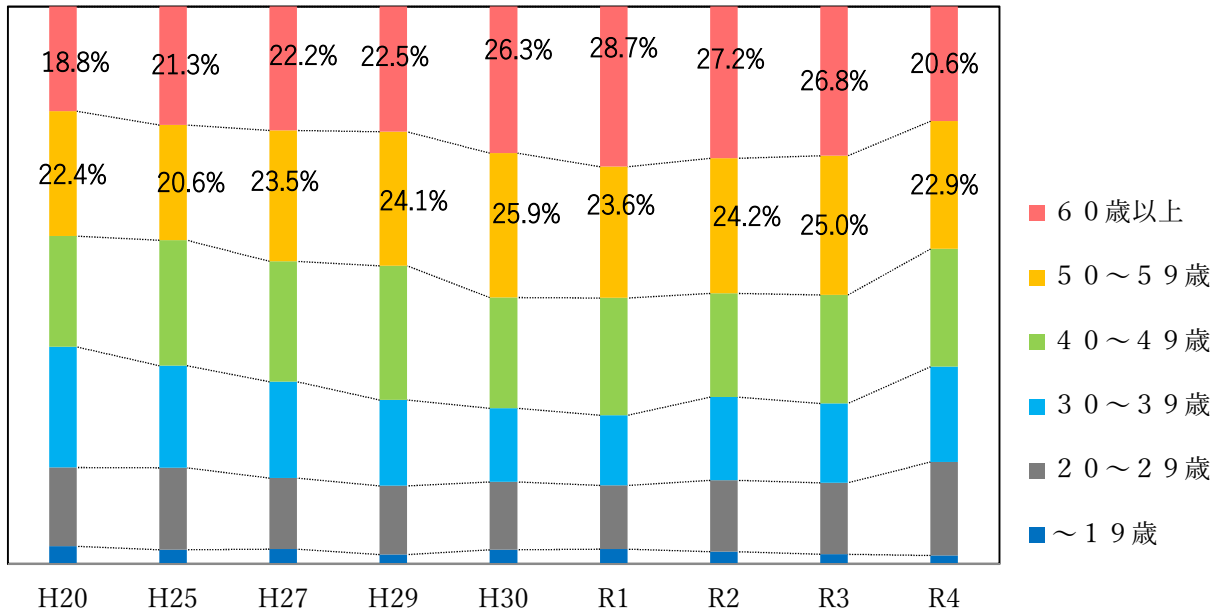
死亡者数の推移



死傷者数の推移

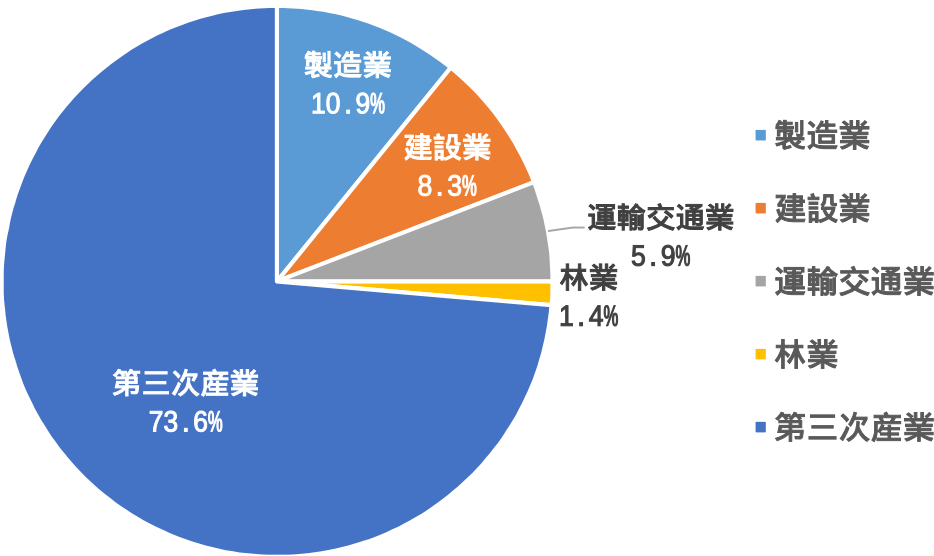


死傷者数に占める年齢別割合



* 死傷者数を年齢別の割合で示したもの。

高年齢労働者の死傷者数に占める業種別割合（R4）



* 60歳以上の高年齢労働者の死傷者数（587人）を業種別の割合で示したもの。